

公的年金制度の2地域経済分析

宮崎公立大学 久保和華

本稿では、資本と労働の分配率、全要素生産性、子育てコスト、子育てコストの子供数に対する弾力性および子育て支援政策という要因に地域差がある2地域を想定した1財2地域経済OLGモデルにおいて、資本市場の開放の有無、年金統合の有無、子育て支援の有無の組合せの違いを組み込んだ経済に場合分けをして、動学メカニズムを説明し、年金給付政策や地域の要因が子供数へ与える影響を定常状態でシミュレーション分析によって定性分析した。特に、資本市場が開放されている経済下で両地域の年金政策が共通（ユニバーサルな年金制度）である場合、両地域の年金制度が統合されていない場合と両地域で資本市場も年金制度も分断されている場合を想定して分析し、さらにこれらに子育て支援政策を導入した場合で分析した。

その結果、資本市場開放下の経済では、短期で地域の子供数は2つの地域で異なるが、定常状態では両地域の子供数は同じになることが明らかになった。そして、資本市場開放下では、2地域の年金統合の有無にかかわらず、年金政策の充実（年金給付率上昇政策）は定常状態における子供数を減少させるという結果が得られた。この結果は先行研究の1地域モデルと同様となった。さらに、子育て支援率上昇はいずれの経済の場合でも子供数を増加させる効果があることも明らかになった。また、いずれの経済でも他のパラメーターの上昇が子供数の定常値にマイナスの効果をもつことがシミュレーションによって確かめられた。

An Economic Analysis on Public Pension systems in Two Regions

Miyazaki Municipal University Waka KUBO

This paper considers the long-run equilibrium of an overlapping generations model with endogenous fertility and income transfer from children to parents, when two regions have the difference of total factor productivity or capital share or child-rearing cost or elasticity of child-rearing cost to the number of children and are economies characterized by the existence of integration of pay-as-you-go pension systems or open of financing market or childrearing policy. Moreover it analyzes the effects of benefit policy or regional factors on individuals' demand for children in the steady state using simulation.